



芝浦メカトロニクスグループ

CSR報告書 2011

Shibaura Mechatronics Group Corporate Social Responsibility Report 2011

芝浦メカトロニクスグループ
CSR報告書2011
目次

| | |
|--------------------------|----|
| トップメッセージ | 2 |
| 会社概要 | 3 |
| 経済性報告 | |
| 芝浦メカトロニクスグループの経営状況 | 4 |
| 芝浦メカトロニクスグループについて | |
| 製品紹介 | 5 |
| 目標と実績 | 7 |
| マネジメント体制 | 9 |
| 社会性報告 | |
| お客様とのかかわり | 11 |
| 株主・投資家の皆さまとのかかわり | 13 |
| 調達取引先の皆さまとのかかわり | 14 |
| 従業員とのかかわり | 15 |
| 地域社会とのかかわり | 18 |
| 環境報告 | |
| 環境憲章 | 19 |
| 環境経営 | 20 |
| 環境目標と実績 | 21 |
| 環境調和型製品の事例 | 23 |
| 事業活動での環境への取り組み | 24 |
| 環境改善への取り組み | 26 |
| 第三者意見 | 28 |

編集にあたって

本報告書は、芝浦メカトロニクスグループのCSR（企業の社会的責任）への取り組みを報告し、ステークホルダー（利害関係者）の皆さまとのコミュニケーションのツールとすることを目的に発行しています。当社グループのことを少しでも多く理解していただければ幸いです。皆さま方からの忌憚のないご意見、ご感想をお寄せください。

報告書の対象範囲

対象期間

2010年度（2010年4月1日から2011年3月31日まで）

対象組織

芝浦メカトロニクス（株）および、国内関係会社5社、海外関係会社4社を対象としています。本報告書中の「当社」は芝浦メカトロニクス（株）を、「当社グループ」は芝浦メカトロニクス（株）および国内・海外関係会社9社を意味しています。また、「グループ会社」は国内・海外関係会社9社を意味しています。

データの範囲

経済性報告については、芝浦メカトロニクス（株）および連結対象関係会社8社のデータです。環境報告については芝浦メカトロニクス（株）および国内関係会社（芝浦ハイテック（株）除く）のデータです。

発行時期

2011年6月（次回：2012年6月、前回：2010年6月）

参考にしたガイドライン

・GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」
 ・環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

トップメッセージ



芝浦メカトロニクス株式会社
代表取締役社長 南 健治

はじめに

3月11日に発生しました東日本大震災の被害は、過去に類を見ない大災害となりました。被災地および被災者の皆さまにお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今回、このような大災害の復旧・復興には、政府・自治体やNGOなどとともに、多くの企業がさまざまな形で支援をしています。当社としましてもすでに義援金をお贈りしておりますが、今後も自社の事業を通じて全社員一丸となり、社会貢献・支援を実施してまいります。

芝浦メカトロニクスグループのCSR

「事業を通じて社会の繁栄を含む持続可能な発展に貢献すること」がCorporate Social Responsibility = CSRとされています。芝浦メカトロニクスグループはこれまでフラットパネルディスプレイや半導体、太陽電池、光ディスクなどの製造装置を納入し、これらの製品製造の一端を担うことを事業としてまいりました。この事業を通して長年培った技術を、変わりつつある社会においてその発展に役立てていくことが、わたしたちのCSRであると考えています。

環境問題に関する取り組み

2010年のエネルギー消費によるCO₂排出量は世界レベルで過去最悪を記録しました。地球温暖化対策による

CO₂排出量削減はさまざまなレベルで協議されています。このような中、当社グループとしては、各エリア毎に空調効率を高めるレイアウトへの変更、空調管理の徹底などを行い、CO₂排出量削減に取り組んでいます。そして、グリーン調達、環境調和型製品 (ECP) の提供など装置メーカーとして環境負荷低減に向けた活動を更に強化していきます。

また、今夏の電力供給制限に伴い、当社グループでは『夏期ピーク電力消費量30%削減』を目標として設定し、勤務体系の変更、待機電力のカット、全社レベルでの節電などの対策を実行することとしました。この機会を捉え一時的な対応とせず、今後も継続的に取り組んでまいります。

ステークホルダーの皆さまへ

お客さまが求めているもの、社会が求めているものは日々変化しています。自社のCSRへの取り組みは変貌する時代の要請に応えるものにしていかなければなりません。

当社グループはこのような社会の変化や時代の要請を的確にとらえ、事業活動、CSR活動をより一層進めていく考えです。

本CSR報告書は当社グループのCSR活動をわかりやすくまとめました。より多くの皆さまにご覧いただき、忌憚のないご意見・ご要望をいただければ幸いです。皆さまの引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

会社概要

当社は1939年に(株)芝浦製作所として設立以来、さまざまな変遷を経て、1998年には大胆な事業構造改革を果たし、社名を芝浦メカトロニクス(株)と改め、現在に至っています。

当社は経営理念を「優れた技術・サービスを提供することで、人々の豊かな暮らしの実現に貢献します」とし、事業基軸を「デジタル時代のインフラプロバイダー」と定め、社会構造の変革に対応してエレクトロニクスコンポーネントの製造装置を供給しています。

■ 会社概要 (2011年3月末現在)

商号：芝浦メカトロニクス株式会社

株主数：7,857名

本社所在地：神奈川県横浜市栄区笠間2-5-1

決算期：3月31日

設立：1939年10月12日

売上高：連結462億円／単独367億円

資本金：6,761,495,960円

従業員数：連結1,532名／単独962名

発行可能株式総数：100,000,000株

発行済株式の総数：51,926,194株

■ 経営理念

優れた技術・サービスを提供することで、
人々の豊かな暮らしの実現に貢献します

■ 企業行動理念

すべてに革新を

芝浦メカトロニクスグループは、商品を通して常に新たな可能性をお客様に提供し、社会の発展に寄与したいと考えています。そして、諸活動を通じて常に社会に貢献し続けられる企業として、革新を進めていきます。

合理性の追求

芝浦メカトロニクスグループは、機能・性能・価格・サービスすべての面で、お客様にご納得いただける商品を提供していくために、たゆみなく合理性を追求し続けていきます。

人間性の尊重

芝浦メカトロニクスグループは、人と人との繋がりを大切にしています。お客様、株主・投資家、従業員、お取引先、地域社会の方々とのコミュニケーションを通して、幸せな社会を築いていきたいと考えています。

■ 事業基軸

デジタル時代のインフラプロバイダー

インターネットとモバイル機器の普及によりグローバルな情報通信時代を迎え、パソコン・薄型テレビ・携帯電話・DVDレコーダといった各種のマルチメディア応用商品やデジタル家電が日々開発・製造されています。

芝浦メカトロニクスグループは、それらを構成するフラットパネルディスプレイ、半導体、太陽電池、光ディスクなど、各種コンポーネントの製造装置を提供する「デジタル時代のインフラプロバイダー」として、豊かなマルチメディア社会に貢献しています。

芝浦メカトロニクスグループの経営状況

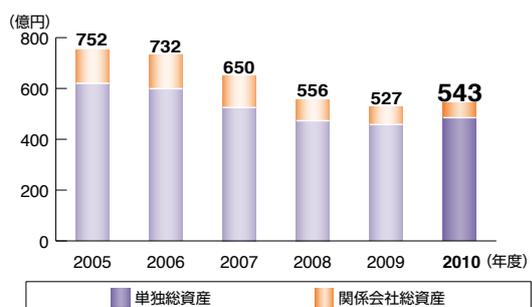
売上高



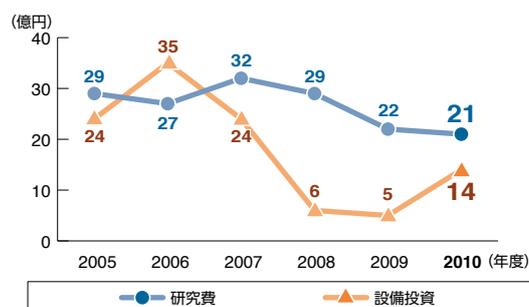
経常利益



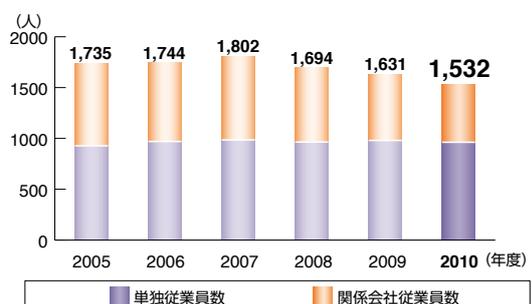
総資産



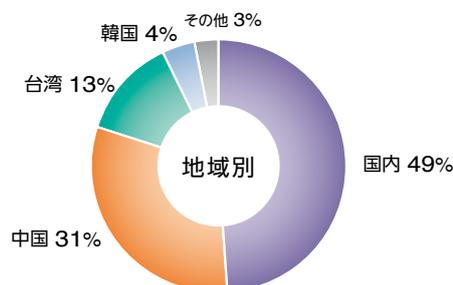
研究費・設備投資



従業員数



2010年度 地域別売上高比率



2008年秋に始まった世界不況の影響をうけ、当社グループは売上高が低下し、経常利益において2期連続の損失計上を続けました。当社はその間、事業活動の強化を図りつつコスト構造改革などの経営変革を続け、2009年度後半から液晶ディスプレイ市場の活性化、

2010年度には新たにタッチパネル需要の急増による中小型製造設備の増加を受けて、売上・利益を伸ばすことができ、2010年度において3期ぶりに経常利益を計上することができました。

製品紹介

■ フラットパネルディスプレイ製造装置

液晶をはじめとするフラットパネルディスプレイ市場は、大型薄型テレビを中心に成長を続けています。最近ではタブレットPCやスマートフォンなどに使われるタッチパネル用の中小型ガラス基板の需要も増えています。

当社はTFT工程、カラーフィルタ工程、セル工程、モジュール工程にわたって、高精度、高生産性の製造装置をお客様に提供しています。

主要製品



ウェットプロセス装置



アウトターリードボンダ



真空貼り合せ装置



配向膜インクジェット塗布装置

■ 半導体製造装置

半導体デバイスは、高集積化が進んでおり、これに対応した装置の開発を進めています。

また、性能向上と経済性を両立させ、地球環境に配慮した商品を提供するための新技術の開発に取り組んでいます。前工程から後工程まで、特徴ある装置でお客様のご要望に幅広くお応えしています。

主要製品



300mmウェーハ対応
枚葉式洗浄装置



ケミカルドライエッチング装置



マスクエッチング装置



マスク洗浄装置



半導体用スパッタリング装置



高精度ダイボンダ

■ 太陽電池製造装置

地球温暖化などの環境問題への解決が求められる中、太陽光発電は再生可能エネルギーとして大きな役割を果たすと考えられています。当社はこの分野において、これまで培ってきた技術を応用し、さまざまな特徴のある装置を市場に投入しています。

主要製品



タブ付ストリング装置



太陽電池用レーザーパターニング装置



太陽電池用
スパッタリング装置

■ 真空応用装置・レーザ応用装置

真空技術をキー技術としたさまざまな製品を市場に投入しています。光ディスク用の成膜装置として、現在Blu-ray Discに金属の反射膜をスパッタリング技術で成膜する装置を市場に投入しています。その他に、プラスチック用スパッタリング装置のパイオニアとして培った高度な真空技術と自動化技術により、電子機器、自動車部品などさまざまな分野に装置を投入しています。また、レーザ単体およびレーザを利用したレーザ加工装置をさまざまな分野に提供しています。

主要製品



多層膜形成用
枚葉式スパッタリング装置



Blu-ray Disc用インラインシステム

■ 多機能水応用設備

液晶基板製造工程において、薬液の劣化をおさえ長寿命化に成功した技術を応用し、工作機械の切削液浄化ユニット、半導体ダイサーの加工性向上ユニットなど、環境負荷を低減する技術を開発、市場に提供しています。

主要製品



工作機械用切削液浄化システム

■ 自動販売機

芝浦自販機(株)は、一貫した各種自動販売機の開発・製造・販売・メンテナンス事業をはじめ、ネットワーク技術を駆使した自動販売機の遠隔管理システムなどの提案により、業界をリードしていきます。

主要製品



タッチパネル券売機

目標と実績

当社グループでは、リスク・コンプライアンス委員会、社会・ES^{*1}活動委員会および地球環境会議にて、それぞれCSR活動の方向づけを行い、その内容をCSR委員会にて審議し、正式決定しています。

| | 大項目 | 2010年度の目標・計画 |
|----------------|--|---|
| マネジメント | コーポレートガバナンス | グループ会社を含めた内部統制システムの適切な運用 |
| | リスク・コンプライアンス | 「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」の徹底 |
| | | コンプライアンス徹底のための教育実施 |
| | | 内部通報制度(リスク相談ホットライン)の運用 |
| | | 安全・衛生にかかわるリスクが発生した職場を「安全衛生指定職場」(モデル職場)とし、一定期間特別監視下におき、リスクアセスメントの浸透を図る |
| 社会性報告 | お客様とのかかわり | CS ^{*2} アンケート 年1回実施 |
| | | ISO9001-2008年度版の実施 |
| | | 内部品質監査 年2回実施 QS ^{*3} 監査 年1回実施 |
| | 株主・投資家の皆さまとのかかわり | IR、説明会充実、会社案内改訂 |
| | 調達取引先の皆さまとのかかわり | 調達取引先へのCSR推進周知徹底、グループ会社への遵法指導の強化 |
| | 従業員とのかかわり | グループ会社の障がい者雇用の促進(法定雇用率維持、インフラ整備) |
| | | 高齢者雇用に関する制度の充実 |
| | | 階層別人権教育を計画 |
| | | ワーク・ライフ・バランスの実現(現行制度の運用強化と多様な働き方を支援する制度の充実) |
| | | |
| | | モデル職場でのリスクアセスメント運用を通し、リスクアセスメントの常態化を進める |
| 地域社会とのかかわり | 社会貢献活動(事業所周辺清掃、小中高生事業所見学の受入、自衛消防隊活動への参加) | |
| 環境報告 | 環境に配慮した製品設計 | 環境調和型製品の創出 |
| | 環境に配慮した生産・販売プロセスの構築 | 地球温暖化対策への取り組み(省エネルギー法の対応) |
| | | ゼロエミッションの推進(目標値を0.5%から0.4%に変更) |
| 環境コミュニケーションの推進 | 社内・外への環境活動の開示 | |
| コミュニケーション | | 2010年6月にCSR報告書発行 |

★達成度： ○達成 △一部達成 ×進捗なし

| 2010年度の主な実施項目 | 達成度★ | 掲載ページ | 2011年度の目標・計画 |
|--|------|-------------|---|
| 経営監査部による監査を実施 | ○ | 9 | グループ会社を含めた内部統制システムの適切な運用 |
| 新入社員導入教育、技術者教育及びe-learningの実施 | ○ | 9-10 | 「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」遵守体制強化 |
| 新入社員導入教育、技術者教育及びe-learningの実施 | ○ | | コンプライアンス徹底のための教育実施 |
| 社内ホームページでの運用 | ○ | | リスク発生の未然防止、リスク重大化への対策 |
| 安全・健康大会におけるモデル職場のリスクアセスメントの発表 | ○ | — | 事故撲滅に向けた安全衛生活動の実施と強化 |
| CSアンケート 年1回実施 | ○ | 11-13 | CSアンケート 年1回実施 |
| ISO9001—2008年度版の実施 | ○ | | ISO9001—2008年度版の定着 |
| 内部品質監査 年2回実施 QS監査 年1回実施 | ○ | | 内部品質監査 年2回実施 QS監査 年1回実施 |
| 決算説明会2回開催、個別IR実施、会社案内改訂 | ○ | 13 | 決算説明会2回開催、個別IR実施 |
| 主要調達取引先約100社にCSR取り組みのアンケート実施 グループ会社の調達部門へ定期的に遵法(下請法)に関する情報を発信 | ○ | 14 | 環境保全活動の指導・支援 調達取引先へCSR推進周知拡大 |
| グループ会社間における障がい者雇用連携強化 | ○ | 15 | 当社グループ障がい者法定雇用率維持 |
| セカンドライフプランセミナーを実施し、高齢者雇用に関する諸制度の周知徹底 | ○ | 13-14 | 高齢者雇用に関する制度の充実 |
| 導入教育に人権教育を実施することを計画 | ○ | — | 人権教育実施 |
| 定時間退社日パトロール実施 | ○ | 16 | ワーク・ライフ・バランスの実現 (現行制度の運用強化と多様な働き方を支援する制度の充実) |
| 安全衛生委員会、職場安全衛生委員会の再構築 安全会発足による啓蒙活動推進(朝のあいさつ運動、安全健康ピラ配り) 健康情報紙の継続発行 | ○ | 17 | 継続した安全衛生健康情報提供 |
| 職場巡回を中心とした危険源(リスク)対策 災害職場に対するリスクアセスメント実施による再発防止強化 | ○ | — | 職場巡回を中心とした危険源(リスク)対策 |
| 社会貢献活動(事業所周辺清掃、小中高生事業所見学の受入、自衛消防隊活動の実施及び技術訓練会への参加) | ○ | 18 | 社会貢献活動(事業所周辺清掃、小中高生事業所見学の受入、自衛消防隊活動の実施及び技術訓練会への参加、地域防災協定に基づく検証訓練実施) |
| 環境調和型製品の継続的創出を推進 | ○ | 23 | 環境調和型製品の創出 |
| 運用管理面での省エネを実施(空調機の断続運転、一人ひとりのできる省エネを促進、巡回によるムダエネルギーの削除) | ○ | 21-22 24 | 地球温暖化対策への取り組み 夏期電力対策の推進 第5次ボランティアプランの策定 |
| 廃棄物の分別徹底を維持 | ○ | 21-22 25 | ゼロエミッション0.4%維持 |
| CSR報告書および社内ホームページにて活動を開示 | ○ | 13 | 社内・外への環境活動の開示 |
| 2010年6月にCSR報告書発行 | ○ | — | 2011年6月にCSR報告書発行 |

※1 E5(Employee Satisfaction) …従業員満足
 ※2 CS(Customer Satisfaction) …顧客満足
 ※3 QS(Quality & Safety) …品質と安全

マネジメント体制

当社グループは、コーポレートガバナンスの充実、リスク管理やコンプライアンスの徹底により、ステークホルダーである皆さまから信頼される企業であるよう努めてまいります。

事業行動基準の遵守

当社は、「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」のもと、グループ規模での統一的な法律・社会規範・倫理等の遵守を掲げ、これらを徹底すべくさまざまな体制構築や取り組みを行っています。

芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準

| | |
|---------------------------|---|
| 第1章 事業活動に関する行動基準 | 1. お客様の尊重 2. 生産・技術活動および品質活動 3. 営業活動 4. 調達活動 5. 環境活動 6. 輸出管理 7. 独占禁止法等の遵守 8. 不適正な支出の禁止 9. 官公庁との取引 10. 技術者倫理の遵守 11. 知的財産権の尊重 12. 適正な会計 |
| 第2章 会社と個人に関する行動基準 | 13. 人間の尊重 14. 会社情報・会社財産の尊重 |
| 第3章 情報開示などに関する行動基準 | 15. 広報活動 16. 広告活動 |
| 第4章 社会との関係に関する行動基準 | 17. 社会とのかかわり 18. 政治献金等 |

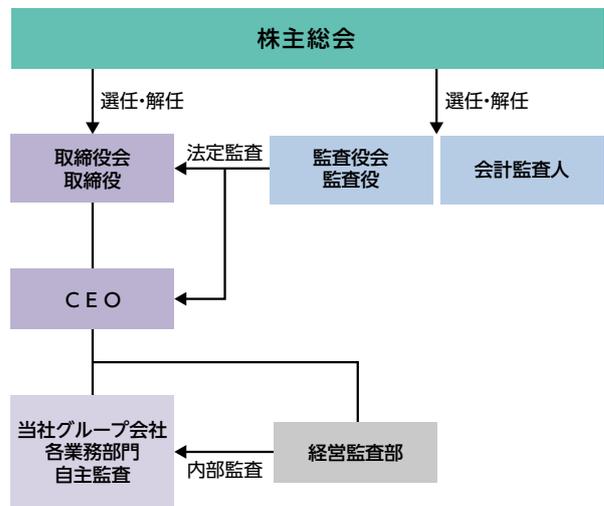
コーポレートガバナンス体制

当社は、取締役・監査役からなる経営体制、監査体制をとっています。業務執行・監査および内部統制の仕組みについては、社長（CEO※1）直属の組織として「経営監査部」を設置し、業務執行を中心とした経営活動の妥当性・効率性の監査を実施しています。

また、監査役による法定監査および公認会計士による会計監査が両輪となって、当社グループの監査機能を担っています。

金融商品取引法（日本版SOX法）に対しては、2006年9月に発足させたJ-SOX推進部を中心にして2007年度までに「財務報告に係る内部統制」の構築を行い、2008年度から整備状況、運用状況の評価を行っています。

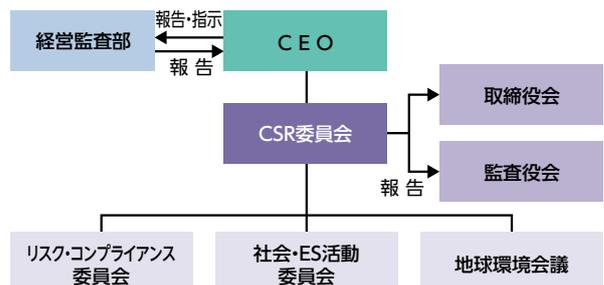
※1 CEO (Chief Executive Officer) …最高経営責任者



CSRマネジメント

2005年4月にCSR委員会を発足させ、それまで担当部門や独立した委員会で個別に取り組んでいた活動を統一的に推進することにしました。CSR委員会では、当社グループのCSRにかかわる方針を立案・推進するとともに、地球環境会議、社会・ES※2活動委員会、リスク・コンプライアンス委員会の活動の方向性を決定し、CSR活動の促進を図っています。

※2 ES (Employee Satisfaction) …従業員満足



リスク・コンプライアンス体制

当社グループは、「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」に基づき、「リスクマネジメント規程」を制定し、リスク発生の未然防止や、より深刻化し得るリスクへの対策に取り組んでいます。2011年3月の東日本大震災においては、重大クライシスリスクに対応した危機管理委員会が早急に発足され、危機管理体制の統制が機能し、経営活動への影響を最小限に止めることができました。

また、実際に報告された総リスク件数も2007年度から2010年度にかけ減少傾向にあります。情報管理の徹底として、定期的な情報セキュリティ教育の実施、情報機器の持込み・持出しルールの厳格化等の取り組みを行っています。また、海外渡航時対策として情報の適時通知を行い、リスク発生の低減を図っています。

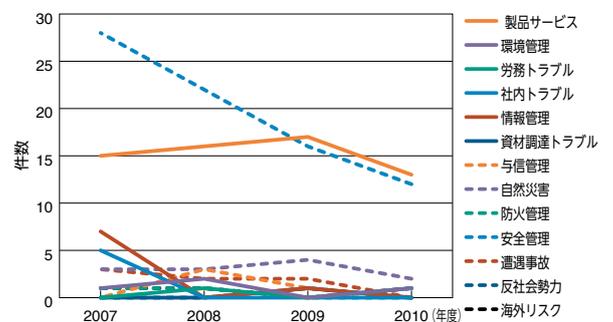
特に「安全管理」については、従業員一人ひとりの安

全意識の定着を目指して実施されている「定期的な安全衛生活動」が功を奏し、リスク件数が大きく減少しました。

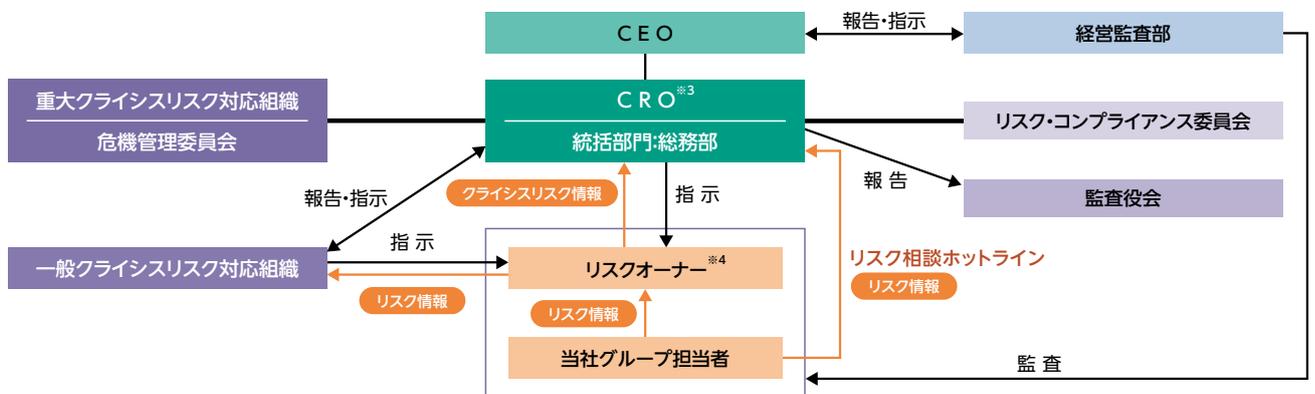
その一方で、重大な事故も発生しており、引き続き安全活動の強化を図り、災害ゼロを目指します。

今後も「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」をベースとした、リスク・コンプライアンス体制強化にグループ一体となり活動を展開していきます。

リスク情報件数推移



リスク管理体制



※3 CRO (Chief Risk-Compliance Management Officer) …危機管理最高責任者
 ※4 リスクオーナー…問題を抱える部門長

輸出管理

当社グループは国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引に関与しないよう、輸出または輸出関連取引を行うにあたり、これを規制する法令を遵守し、またその立法主旨に立脚して業務を遂行しています。

「芝浦メカトロニクス輸出管理プログラム」を制定し、すべての役員および従業員はこれを遵守して不正

取引に関与することのないよう努めています。

さらに、教育に重点を置き、輸出管理の基本的な認識を深め、問題意識を醸成するため、すべての役員および従業員に対する教育、また部門の管理者や担当者に行うコース別の体系的集合教育、海外赴任者や途中入社者など必要に応じ実施する個別教育などを行っています。

社会性報告

当社グループはお客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地域社会などさまざまなステークホルダーの皆さまと関わり、皆さまの声を聞きながら事業を進めています。ステークホルダーの皆さまとの一つひとつの関係を大切にしています。



お客様とのかかわり

お客様の満足や利益に貢献する商品、サービスを提供することが、ひいては当社の成長と発展につながるものと考えています。お客様の声を聞き、日々の改善に取り組んでいます。

お客様の声を生かす

納入した製品に対するご要望やご要求に最大限お応えするよう営業・設計・製造・サービスのすべての部門が窓口となり、お客様の「声」を伺っています。サービス窓口の「eサービスセンター」では、24時間体制で日常のあらゆるお問い合わせを受け付けています。

また、お客様にご協力いただき、当社グループのサービスに関する「CS※1アンケート」を年1回行っており、2010年度で6回目となりました。お客様からいただいた厳しいご意見やご要望を分析し、改善項目を選び出し、実行しています。

2010年度の結果では、サービスに関しては、前年度と同様に技術部門とサービスとの連携プレーの一層の強化を望まれるご意見を多くいただき、この改善のため両者の情報共有と協力体制の強化に引き続き取り組んでいます。

※1 CS(Customer Satisfaction) …顧客満足

サービスに対するお客様評価



さらに2010年度に引き続き、

- ① 製品安全お客様訪問点検活動の展開
- ② 顧客密着型「eサービスセンター」運用
- ③ 中古事業強化
- ④ サービス部門と技術部門の連携強化
- ⑤ サービス拠点間のバックアップ体制の強化
- ⑥ 部品供給体制の充実

⑦ スキル・マナーを中心とした社内教育充実を行っています。

当社グループに対しては、製品への改善・改良のご提案・ご要望、新しい技術情報の提供および提案強化のご要望をいただいています。

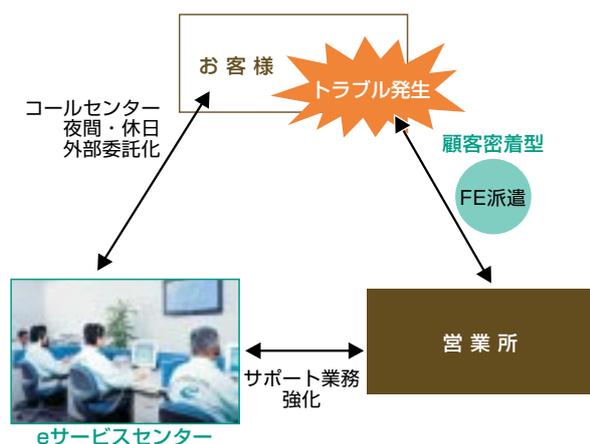
中古事業への取り組み強化



展示会で中古装置をアピール



顧客密着型「eサービスセンター」



<品質管理システム>

ISO9001 (2008年度版) に準拠した品質システムにより、受注から設計、製造、試験、据付、サービスまで各段階で適切なレビューを行うとともに、各部門に寄せられたお客様のさまざまなご意見や市場情報を分析し、製品改良に役立てています。

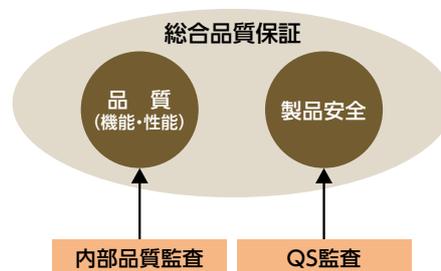
<製品安全リスクマネジメント体制>

品質課題やPLにつながる可能性のある安全問題について、組織階層毎に「QS※2委員会」を設け、個々の物件の対応から全社システムの改善まで幅広い取り組みを行っています。

※2 QS (Quality & Safety) …品質と安全

<品質システムの維持監視>

これらの体制を常にチェックするため、ISO9001規格に基づく内部品質監査とともに、製品安全に重点をおいた「QS監査」を年1回行い、製品の安全確保に努めています。



お客様の立場に立った品質保証

当社グループではお客様の立場に立った品質保証を実現するために、製品の安全と品質(機能・性能)の両面からCSを向上させる「総合品質保証基本方針」を定めています。

総合品質保証基本方針

芝浦メカトロニクスは、人間尊重を基本とする経営理念に則って、関連する法令を遵守するとともに顧客第一に徹し、お客様に満足していただける高品質で安全、かつ機能を先取りした商品およびサービスを提供し、社会に貢献することを目指します。

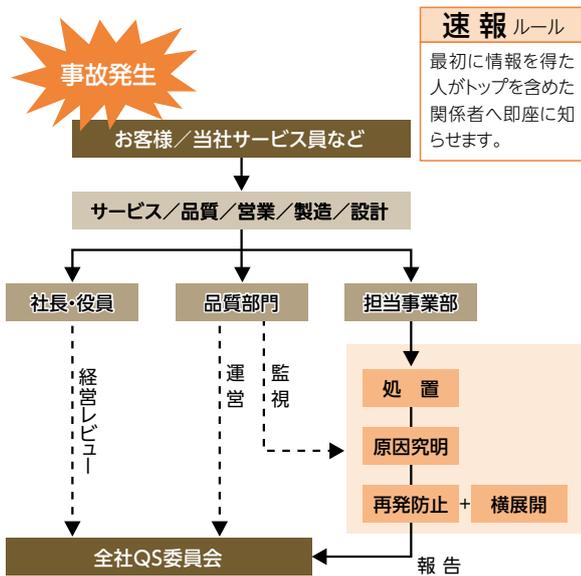
製品安全への取り組み

ケガや火災などにつながる製品安全にかかわる事故は最優先の問題として取り組んでいます。

<情報管理・対応体制>

- ① 「速報」ルール
- ② 第三者による客観的な監視
- ③ 経営視点からのレビュー

の3つの施策により、すぐに行動を起こす「早さ」、情報伝達の「速さ」、そして二度と事故を起こさない徹底した管理体制を維持しています。



芝浦メカトロニクスグループの製品事故などへの対応体制

＜継続して安全にご使用いただくために＞

2009年度からの取り組みとして、当社製品を長年ご使用いただいているお客様、移設をされたお客様、中古機としてご購入されたお客様に対し、装置の劣化やお客様での管理・改造等を原因として高まる製品安全リスクを事前に発見予防するため、FE訪問点検によるお客様への改善指導や有償修理の提案を行う活動を引き続き行っています。

＜製品安全設計手法の取り組み＞

製品安全設計においては、リスクの分析・評価を行う製品安全リスクアセスメント手法として「R-Map手法」※3を採用し展開を推進しています。

※3 R-Map手法（リスクマップ手法）…危害の程度5段階、発生頻度6段階でリスクを評価する。これをマップの上にビジュアル化する手法。日科技連においてとりまとめられた手法。国際規格要求に整合。

株主・投資家の皆さまとのかかわり

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

当社は、決算に関する情報を適時・適切に開示しています。証券会社や機関投資家、報道機関向けに半期ごとの決算説明会や記者会見にて説明しています。説明会ではアンケートを行い、皆さまから寄せられたご意見、ご要望を取り入れ、説明会やIR資料の充実に取り組んでいます。

また、毎年6月に開催している株主総会を株主の皆さま



決算説明会

の重要なコミュニケーションの場と位置づけ、終了後に社長をはじめとする役員との懇談会を開催しています。

なお、機関投資家へ個別IRミーティングを随時行うなど、株主や投資家の皆さまに当社グループの事業への理解を深めていただけるよう努めています。

広報メディアを通じた情報開示

ステークホルダーの皆さまに当社グループのことを少しでも多く知っていただきたい、という思いで、会社案内、Annual Reportなど、冊子やホームページで、情報開示を行っています。



Annual Report

調達取引先の皆さまとのかかわり

当社グループは、グループ共通の調達方針に基づき、法令遵守や人権、環境を重視し、調達取引先の公平・公正な評価、調達取引先と相互に利益のあるパートナーシップを構築し、グローバル企業として社会的責任を果たしてまいります。

調達方針

- 公平の原則 すべての調達取引先に公平に競争の機会を開放します。
- 公正な評価 品質・価格・納期・サービス・安定供給、および環境への配慮の面から総合的かつ公正な評価をします。
- パートナー 調達取引先と相互に利益のある関係を樹立し、維持することに努めます。
- 遵法の原則 調達取引先との契約上の義務を誠実に履行し、各国、地域の法令などを遵守します。
- グリーン調達の推進 地球環境に配慮した製品の調達を推進します。

調達取引先との情報共有

● ビジネス・パートナーズ・ミーティングを毎期開催しています

当社社長をはじめ、各事業および生産・調達を担当する役員が、主要取引先の皆さまに直接事業状況・生産計画・中期方針等について説明する「ビジネス・パートナーズ・ミーティング」を、2010年度は6月と11月に開催し、相互の発展を目指した協力関係の維持に取り組んでいます。



CSR推進

● 調達取引先にCSRの理解と推進をお願いしています

2009年度、主要調達取引先にCSRについて理解と推進をお願いする文書を配布しました。2010年度はCSRの理解と推進状況を調査するため主要取引先約100社にアンケートを実施しました。

環境に配慮した調達

● 「グリーン調達に関する協力合意書」の締結を推進しています

調達品の環境関連物質含有の有無を調査するとともに、環境負荷の小さい製品・部品・材料・原料等の納入、環境保全活動の推進にさらにご協力いただけるよう、2007年度から取引先と「グリーン調達に関する協力合意書」の締結を進めています。締結率は毎年増加しており、2010年度も前年度から増加しました。

「グリーン調達に関する協力合意書」締結率の状況

| 項目 | 目標 | 2009年度 | 2010年度 |
|--------|-------|--------|--------|
| 合意書締結率 | 95%以上 | 96.8% | 97.5% |

* 合意書締結取引先への合計調達金額/全調達金額

従業員とのかかわり

障がい者雇用に向けた取り組み

当社は「人間性の尊重」を企業行動理念として、「基本的人権を尊重」する旨芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準に掲げております。

その結果、2011年3月現在、障がい者雇用率は1.91%となり、2010年度も法定雇用率1.8%を上回りました。

今後も、障がい者個々人に応じて、スキルアップを推進し、達成感の醸成を図り、より働きやすい職場環境作りに取り組んでいきます。

アビリンピックに出場して

総務部
総務・安全グループ

林田 美紀さん

2011年1月、神奈川障害者職業能力開発校にて開催された技能競技大会「アビリンピック神奈川2010」に出場しました。

全13種目101名が出場し、私はパソコンデータ入力競技を行いました。

今年で2回目の出場となり、緊張と平常心とが入り混じっての参加でしたが、アビリンピックに向け日々練習をしてきましたので、当日は練習の成果を発揮することができました。

次回も出場できるよう努力し、他の競技種目でも気になる種目がありましたので、機会があれば挑戦してみたいと思います。



人材育成

当社グループは、事業活動を推進するにあたって、基盤は従業員であり、従業員(人)を会社の財産として「人材」育成を推進しています。

2010年度は、人材育成の柱として人事ローテーションや、現在の所属部門のままで期限付きで一定期間他の職場での勤務を行う「応援」という形態による人事施策を実施し、「多職能化」を推進しました。他部門へ人事異動する定期的な人事ローテーションや、社内の仕事の負荷を平準化するために負荷の低い部門から負荷の高い部門へ期限付きで「応援」することにより、従来の業務以外を経験することが出来ます。これにより、従業員は多職能を経験し、自身の業務遂行能力を向上するができ、また、社内の他の職場の状況を知り、新たな発見を得ることもできます。このような人的交流の活発化は、人材育成のみならず、社内の活性化にも繋がっています。

今後も、更なる経営体制強化の為、活発な人材育成を進めていきます。

高齢者雇用に向けた取り組み

当社グループの定年は60歳ですが、2001年度から定年退職者を嘱託従業員として再雇用する制度「セカンドライフプラン制度」を導入しており、改正高齢者雇用安定法で求められる継続雇用制度とほぼ同等内容での65歳までの枠組みで雇用確保を行っております。2010年度の定年退職者は21名で、うち15名を再雇用しました。



また、2011年2月に高齢者雇用取り組みの一環としてセカンドライフセミナーを開催しました。当日は3年以内に定年を迎える従業員70名が参加し、「セカンドライフプラン制度」「社会保険制度」等の説明を行い、参加者の理解を深めました。

今後も高齢者が生き生きと働けるよう制度・環境整備を進め、「働き方の多様化」を推進していきます。

仕事と育児の両立に向けた取り組み

当社では、仕事と育児の両立を支援するための仕組みとして、産前産後休暇をはじめ、育児休職制度や短時間勤務制度・看護休暇制度を導入しています。

最近では共働き世帯が増加しており、2011年3月現在の出産女性の育児休職取得率は100%であり、短時間勤務制度利用者は2010年14名と年々、従業員の利用率が上がっています。

これからも継続して、仕事と育児の両立を支援する仕組み作りに取り組みます。



短時間勤務

ファインメカトロニクス事業部
管理グループ 主務

勝田 由美子さん

産休・育休を経て復職して約2年が経過しました。出産前は未知の世界だった「育児」が加わったことで、復職当初は、新たな生活サイクルに対して「育児や家事をこなしながら、会社に迷惑をかけないように仕事ができるかどうか。」という不安でいっぱいでした。

以前のように仕事が出来ずに悩み、仕事・育児・家事のストレスで円形脱毛をはじめ、体に異変だらけの時期もありました。

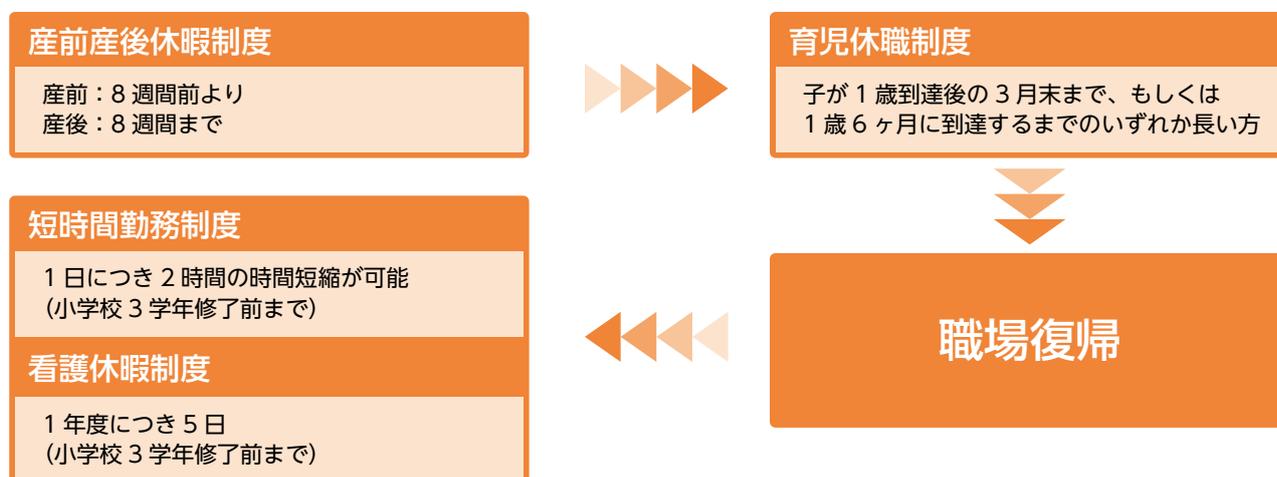
しかしながら今では、気持ちを切り替え、「仕事と育児の両立」を自ら選んだ以上、モチベーションをあげ、率先して仕事に取り組むように心掛けています。

現在、短時間勤務制度を利用していますが、人より時間が短い分、以前より常に効率とアウトプットを考えて業務に従事するようになりました。

朝起きてから寝るまで慌しく、時間に追われる日々ですが、今では充実した会社生活・子育てを送っております。

これからも“日々挑戦”の背中を我が子に見せながら頑張っていきたいと思います。

仕事と育児の両立に向けた支援体制(流れ)



労働災害発生件数の推移

2010年度の不休災害を含む労働災害発生件数は2009年度の8件に対し7件でした。

しかし休業災害が2件、不休災害が5件発生しており、依然として災害ゼロを達成できていません。

今後、危険に対する意識を高揚させ、災害ゼロから危険ゼロを目指して活動していきます。

当社グループ 業務上災害発生件数推移



第3回 芝浦メカトロニクスグループ安全健康大会

2011年3月6日に第3回「芝浦メカトロニクスグループ安全健康大会」を開催しました。

部門の安全衛生活動事例発表や外部講師による安全講話と講評を実施しました。

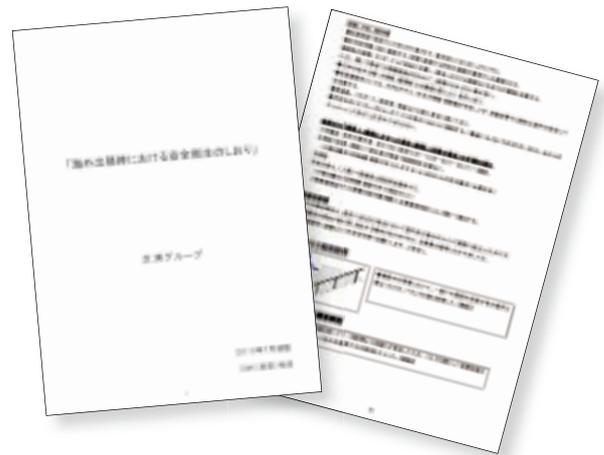
今後もトップダウンと自主的安全活動の両輪による安全文化の醸成を継続的に推進します。



安全改善事例

過去の海外出張で発生したヒヤリハットやさまざまな経験などを記載した「海外出張時における安全衛生のしおり」を作成しました。

今後も海外出張者の安全と健康を配慮していきます。

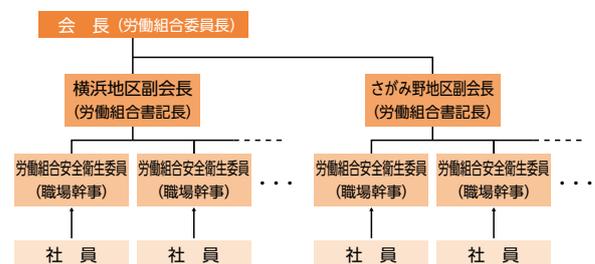


安全管理体制の再整備

従業員一人ひとりの安全意識の高揚を目指し、社員全員を会員とする「安全会」を発足しました。

主に社員一人ひとりの意識高揚を中心に啓蒙、PR活動をしていきます。

安全会体制



安全意識啓蒙活動



地域社会とのかかわり

夏祭り

毎年恒例の夏祭りが、2010年7月23日にさがみ野事業所で、8月5日に横浜事業所でそれぞれ開催されました。従業員のみなならず、家族や地域住民の皆さまも参加され、交流を図ることができました。



事業所周辺清掃

毎年6月、環境月間活動の一環として事業所周辺清掃を実施しています。

今年で17回目となる横浜事業所では、380名が参加し、さがみ野事業所では、287名が参加しました。事業所周辺や近隣公園に捨てられた空き缶、空き瓶や枯れ葉など、総重量約600Kgを回収しました。



◀横浜事業所近隣の公園

さがみ野事業所近隣の
東柏ヶ谷公園 ▶



自衛消防隊技術訓練会

本年度は、横浜事業所消防隊に加え、さがみ野事業所においても自衛消防隊が新設されました。また、2010年9月9日に開催された栄区自衛消防隊技術訓練会「小型ポンプ操法の部」にて優勝し三連覇を達成しました。その後、栄区代表として出場した横浜市大会(11月19日開催)では見事4位に入賞しました。



地域小中高生事業所見学

当社は2006年度から小中高生の事業所見学を積極的に受け入れています。2010年12月には、横浜事業所に中学1年生の生徒5名が来社しました。

実際に、3次元CAD操作、計測、騒音・雨水点検、安全パトロール等を体験しました。3次元CAD操作では「大変興味を持った」、計測では「こんなに細かく測れるのには驚いた」、騒音・雨水点検では「環境の大切さや近隣に対しての配慮について学んだ」、安全パトロールでは「いろんな仕事があることに驚いた」といった声があがりました。生徒にとって、職業や進路を考えるうえで良い機会となったようです。



環境報告

モノづくりのメーカである当社グループでは、事業活動を行う際に地球資源の使用や地球環境への負担を最小限に抑える「使わない」、事業活動の結果として排出されるCO₂や廃棄物を可能な限り「出さない」との方針のもと、開発、生産などの事業活動における環境負荷の低減を進めるとともに、お客様がより少ないエネルギーや材料で商品を生産できる製造装置を提供することにより、温室効果ガス排出量低減を図っています。

環境憲章

「“かけがえのない地球環境”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」という認識に立って、持続可能な社会へ貢献します。

1. 環境経営の推進

“すべての事業プロセス上での「使わない・出さない」の推進”

2. 環境調和型製品の提供

“開発から廃棄段階までの環境負荷低減の追及”

3. 社会的企業

“ステークホルダーとの協調とCSR経営の推進”

環境基本方針

当社グループは、長年培ってきたコア技術（精密メカトロニクス、真空、洗浄、成膜、接合、レーザなど）を結集してフラットパネルディスプレイ、半導体、メディアデバイス、電子部品、電池用向けに製造装置の開発からサービスまで、モノづくりメーカとして生産活動における環境への配慮と、環境調和型製品の提供を推進します。

具体的な取り組み

1. 環境経営の推進

・地球資源の使用、地球環境への負担、そして事業活動の結果として排出される物を減らすことで、「環境」と「経営」を両輪とした活動を推進し、合わせて継続的な改善活動と環境事故や汚染の予防に努めます。

2. 環境調和型製品 (ECP) の提供

・地球資源の有限性を認識し、積極的に環境調和型製品の提供を展開していきます。

3. 事業系活動の推進

・事業活動に関わる環境側面については、環境目的および目標を設定して、地球温暖化防止、資源の有効活用、化学物質の削減・管理など、すべての事業プロセスで環境負荷低減を推進していきます。

4. 社会的企業

・環境に関する法令、当社が同意した指針、自主基準値を遵守します。

・当社のために働く全ての人々の環境意識を高め、全員で取り組みます。

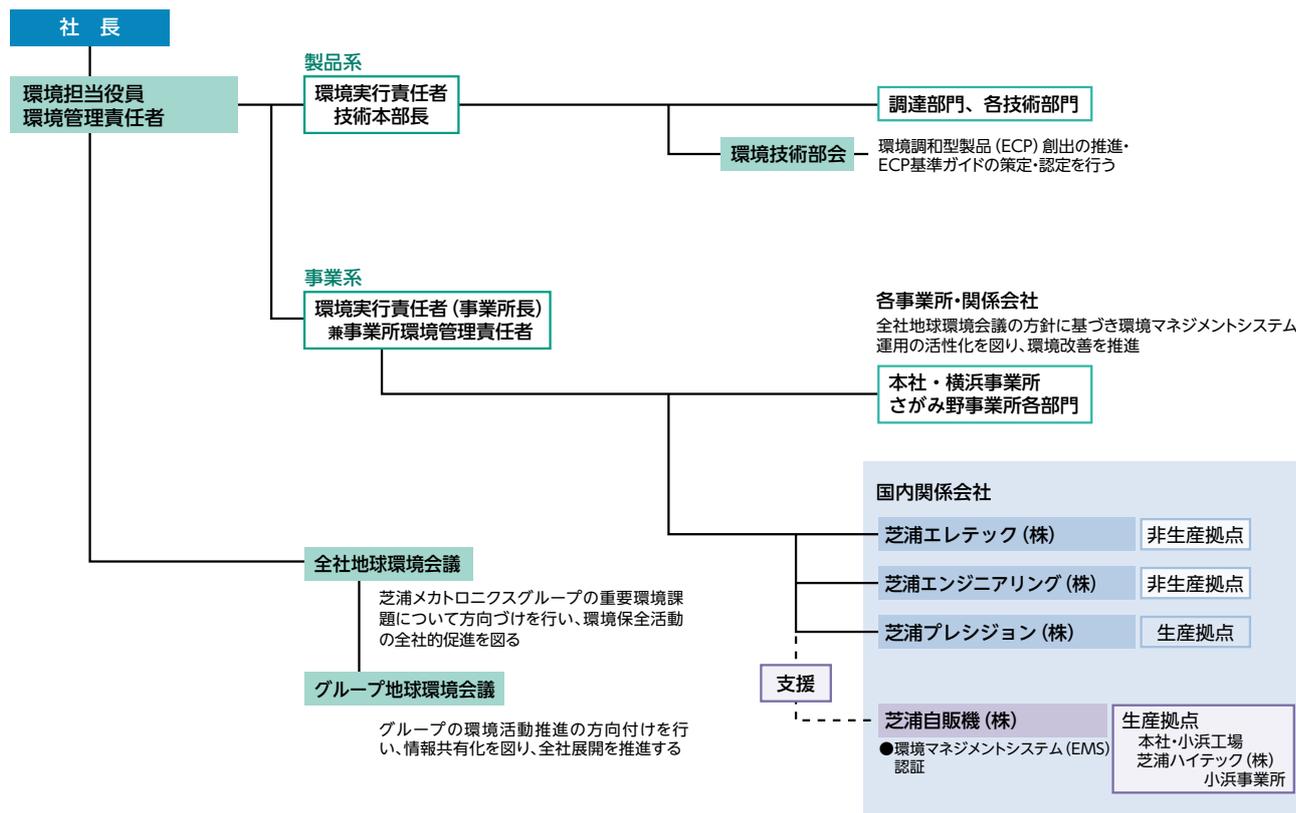
・芝浦メカトロニクスグループ一体となった環境活動を推進し、優れた環境技術や製品の開発と提供、および地域・社会との協調連帯による環境活動を通して、相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行い社会に貢献します。

環境経営

環境保全推進体制

総務部長を当社グループの環境管理責任者とし、製品系については技術本部長を、事業系については事業所長をそれぞれ環境実行責任者と決め、「全社地球環境会議」で当社グループの環境課題について対応の方向付けを行い、環境活動の全社促進を図っています。

境会議」で当社グループの環境課題について対応の方向付けを行い、環境活動の全社促進を図っています。



環境マネジメントシステム

ISO14001統合認証取得後、3年後の更新審査合格を経て最初のサーベイランスを2010年に受けました。数点の「推奨事項」の指摘を受けましたが昨年度より向上しているとの評価をいただきました。

引き続き芝浦メカトロニクスグループ一丸となって環境マネジメントシステムを継続的に維持・運用していきます。

| 年度 | 認証取得 | 評価 | | | | |
|----------|----------|----------------|------|------|--------------|------|
| | | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
| 本社・横浜事業所 | 1999年 4月 | 統合審査 統合認証取得 | 向上 | 向上 | 更新審査 維持継続 | 向上 |
| さがみ野事業所 | 1997年12月 | | | | | |

環境目標と実績

事業活動における環境負荷状況

資源の使用量と排出量を定量的に把握し、生産活動などにおける環境負荷低減活動を継続的に推進しています。

2010年度実績

| 投入 | | | 排出 | |
|-----------------------|-------------------------|---|-----------------------------------|---------------------------|
| 電力使用量 | 1,075.6 万kWh | ▶ | CO ₂ 排出量 ^{※2} | 4,029.1 t-CO ₂ |
| LPG使用量 | 1.5 t | | | |
| 都市ガス使用量 | 122.5 km ³ | | | |
| 原油換算使用量 | 2,894.6 kℓ | | | |
| 化学物質取扱量 ^{※1} | 561.1 kg | ▶ | 化学物質排出量 | 5.8 kg |
| 上水使用量 | 49,441.0 m ³ | ▶ | 排水量 | 47,323.0 m ³ |
| | | | 廃棄物総発生量 ^{※3} | 826.3 t |
| | | | └ 再資源化量 | 825.1 t |
| | | | └ 最終処分量 | 1.2 t |

※1 PRTR法の改正を機に把握対象物の見直しを行い、お客様の依頼による評価実験に使用される薬液も把握対象とした。
 ※2 電気事業連合会から2010年度に開示されたCO₂換算係数で評価
 ※3 お客様から依頼された評価実験廃液を含む

自主行動計画（ボランティアプラン）自己評価

第4次自主行動計画（2012年度までに拡張）に基づき、継続的に環境負荷低減に向けた施策を展開しています。

第4次自主行動計画 自己評価

| 項目 | | 指標 |
|------|---------------------|---|
| 製品系 | グリーン調達推進 | グリーン調達に関する協力合意書の締結率(取引額比率) |
| | 環境調和型製品提供 | 環境調和型製品売上高比率 |
| 事業系 | 地球温暖化対策 | CO ₂ 排出量原単位削減率 (内部生産高CO ₂ 原単位削減 t-CO ₂ /億円) |
| | 資源の有効活用 | 廃棄物発生量削減率 ^{※5} (評価実験廃液を除く) |
| | | 原単位による廃棄物管理 (2007年度から集計開始 引き続き継続把握) |
| 維持管理 | 遵法 | 法規制値に基づく自主基準値の維持 |
| | 資源の有効活用 | ゼロエミッション (最終処分率0.4%の維持) |
| | 製造工程で使用する化学物質排出量の把握 | 排出量の把握 (PRTR法 ^{※6} 、東芝独自の削減対象物質、グリーン調達使用制限物質に基づく実績把握) |
| | 情報開示と社会協調 | CSR報告書での環境情報開示と地域環境保全活動の拡充 |

環境への取り組み

製造装置メーカーとして「製品系」、「事業系」の両輪による環境活動を推進しています。

製品系の取り組みとして環境調和型製品を世の中に提供することで環境への負荷低減に貢献しています。

事業系の取り組みとして生産活動を通してエネルギーの効率化、廃棄物の減量化、再資源化など、環境負荷低減のため、維持改善に積極的に取り組んでいます。

| 基準年度 | 2010年度 | | | 2010年度のまとめと課題 | 2011年度目標 | 2012年度目標 |
|----------------------|----------|-------------------|-------------|--|----------------|----------------|
| | 目標 | 実績 | 改善度 | | | |
| — | 97%以上 | 97.5% | +0.5% 達成 | 目標達成につき上方修正。 | 100% | 100% |
| — | 50%以上 | 66% | +16% 達成 | 順調に推移し、目標を達成。 より高い目標設定し推進します。 | 全製品群で 55%以上 | 全製品群で 60%以上 |
| 2007年度 ^{※4} | 4%削減 | 29%削減 | +25% 達成 | 2010年度は生産エリア、事務所エリアを改善してより空調効率の良いレイアウト変更を行う等で、省エネに努め、夏場の記録的猛暑によるエネルギー使用量の増加はありましたが、目標値を達成することができました。2011年度も更にこまめな運用管理をすると共に徹底した空調管理を実施して温室効果ガス排出量の削減を行います。 | 5%削減 | 6%削減 |
| 2004年度 | 10%削減 | 37%削減 | +27% 達成 | 対目標値は大幅達成の結果ですが、海外調達による梱包材が増加しつつあり現在改善に取り組んでいます。 | 12%削減 | 14%削減 |
| 実績把握 | | 4.1t/億円 | | | 継続把握 | 継続把握 |
| — | 自主基準値の維持 | オーバーゼロ | 問題なし 達成 | 自主基準値を維持しています。 | 自主基準値維持 | 自主基準値維持 |
| — | 0.4%以下 | 0.14% | 問題なし 達成 | 基準値以下を維持しています。 | 0.4%以下 | 0.4%以下 |
| 実績把握 | | 5.8kg | | 継続的に定量化を行い、維持管理を推進しています。 | 適正把握 | 適正把握 |
| — | 継続 | CSR報告書を作成しweb上で開示 | 継続 達成 | 積極的に情報を開示。 | 継続 | 継続 |

※4 地球温暖化対策については、本社・横浜事業所の事業変化を踏まえ基準年度を2007年度に統一

※5 お客様から依頼された評価実験廃液を除いた数値で評価

※6 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register) …化学物質排出移動量届出制度

環境調和型製品の事例

環境調和型製品

当社グループは製品系の取り組みとして、環境調和型製品 (Environmentally Conscious Products = ECP) を世に送り出すことで地球環境の負荷低減に努めています。ECPの創出においては、製品のライフサイクル (製品の材料調達、製造、輸送、使用、廃棄にいたる一連の工程) 全体から環境負荷をとらえています。ライフサイクルで発生する環境負荷は、その企画・設計段階での取り組みが大きく影響します。当社では2005年度より製品価値と環境への影響を総合的に評価する指標として「ファクター」という考え方を取り入れ、製品ごとにこれを数値化した「ファクター値」を

もって、製品の環境適合度・改善度を評価しています。

ファクター値は、評価製品の環境効率を基準製品の環境効率で割ったものです。環境効率とは、製品の価値を製品の環境影響で割ったもので、ファクター値の数値が大きいほど評価製品の環境効率が優れています。このファクター値が1.5以上の製品をECPと認定し、この値が2.0以上に評価された製品を特にEx-ECP※ (Excellent ECP) と認定しています。

当社グループは今後も環境調和型製品の開発を推進し、さらに多くを市場に提案していきます。

※Ex-ECP (Excellent Environmentally Conscious Products) … 優秀環境調和型製品

液晶ディスプレイ生産工程で使用されるECP (環境調和型製品)

配向膜インクジェット塗布装置

■ 環境の改善【省資源・省エネ】

| | | | |
|-----|-----------------|----------|-------|
| 省資源 | 軽量化 駆動モータ数削減 | 機能あたりの重量 | 44%削減 |
|-----|-----------------|----------|-------|

■ 価値の改善【生産性向上】

| | |
|--------|----------------|
| 処理能力向上 | 時間あたりの処理枚数2.7倍 |
|--------|----------------|



ファクター値
2.12

配向膜インクジェット塗布装置は、液晶ディスプレイの製造工程で、ガラス基板に配向膜 (= 液晶の粒に電気を伝える膜) を、インクジェット方式で塗布する装置です。当社は2003年に、それまで行われていたロール印刷方式をインクジェット方式に置き換えることにより塗布薬液使用量を70%削減した装置を、市場に投入しました。その後、ガラス基板の大型化が進み、生産装置も大きくなるため、いっそうの省スペース化や軽量化が求められてきました。

そこで今回、本装置の構造の見直しをおこない、さらに環境効率の高い装置を開発し市場に投入しました。装置強度を保持したまま軽量化を実現し、それにより使用するモータの小型化、数量を減らしました。装置軽量化により移送段階におけるトラックなどのCO₂排出量の低減にも寄与しています。

事業活動での環境への取り組み

事業活動における環境負荷情報

事業活動を拡大しつつ、環境負荷低減を目指した環境活動を進めています。

CO₂重量の内部生産高による原単位を算出し、この指標をもとに排出量削減を推進しています。

使用したエネルギーおよび排出したCO₂は2007年度から減少傾向にあり、排出したCO₂に関しては、内部生産高に対する原単位も減少傾向にあります。

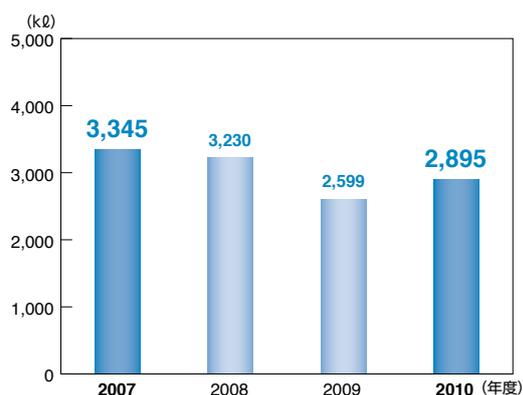
エネルギー使用量/排出量

投入

排出

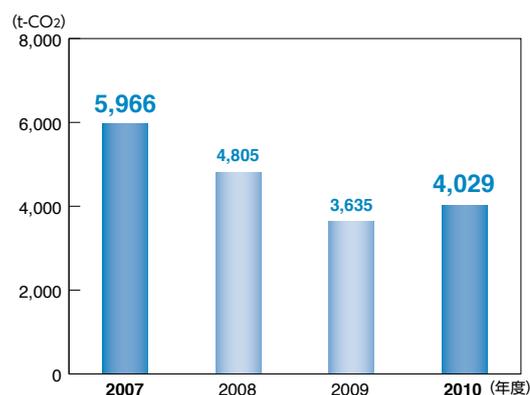
エネルギー原油換算使用量 (kℓ)

使用しているエネルギー（電力、都市ガス、LPG）を省エネルギー法に基づき原油換算しています。



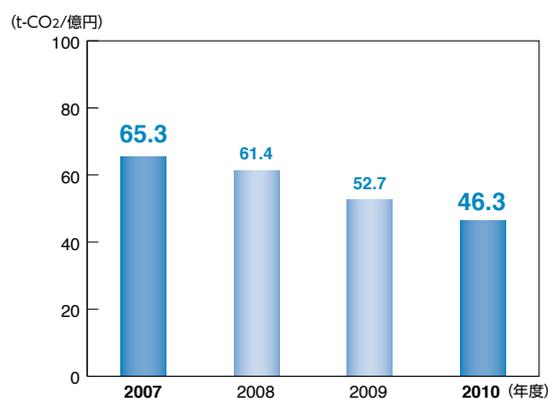
エネルギーCO₂換算排出量 (t-CO₂)

使用しているエネルギーをCO₂重量に換算して排出量を算出しています。



エネルギーCO₂内部生産高原単位排出量 (t-CO₂/億円)

CO₂重量換算したエネルギーを内部生産高単位で算出しました。

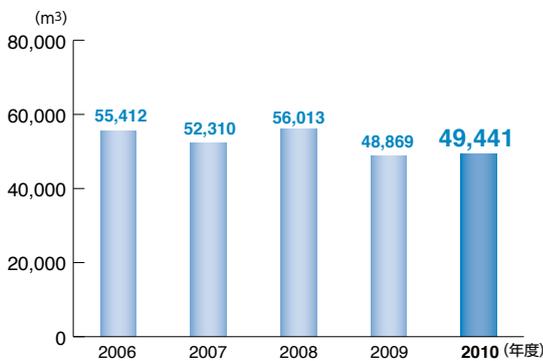


■ 上水(市水)使用量

当社横浜事業所では、半導体、液晶パネル製造装置の製造過程で多量の水資源を使用します。

特に2008年度からお客様からの依頼実験が増加し使用量が増加していますが、水の再生や循環水の使用を実施して使用量の減少を行っています。(2009年度の使用水量が少ないのは弊社帰休による稼働日減少のためです)

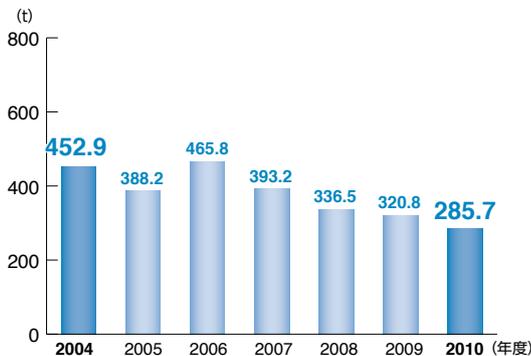
上水(市水)使用量



■ 廃棄物発生量

廃棄物発生量においては2006年度をピークに年々減少しています。

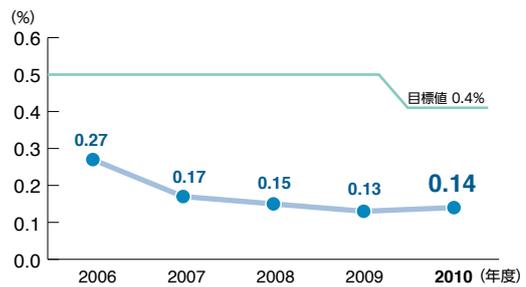
廃棄物発生量



■ ゼロエミッション

2006年度に目標値を0.5%に変更後、徹底した分別により0.4%以下を維持しているため、2010年度目標値を0.5%以下から0.4%以下に上方修正しました。

ゼロエミッション



■ 環境関連法の遵守

環境に関する法律は、年々対象を広げ厳しくなっています。早い段階で、予防処置を講じるためにも、法令より厳しい自主基準値を設け独自に確認・評価し、異常が発生した場合の体制を構築しています。

環境法令

| | 横浜事業所 | さがみ野事業所 | 10年度結果 |
|---------|-------|---------|--------|
| 大気汚染防止法 | 非該当 | 該当 | 基準値以下 |
| 水質汚濁防止法 | 該当 | 非該当 | 基準値以下 |
| 下水道法 | 該当 | 非該当 | 基準値以下 |
| 騒音規制法 | 該当 | 該当 | 基準値以下 |
| 振動規制法 | 該当 | 該当 | 基準値以下 |

報告・届出関連

| | 横浜事業所 | さがみ野事業所 | 10年度結果 |
|-------------|--------|---------|-----------|
| 省エネルギー法 | 第2種に該当 | 非該当 | 1回/年 報告済み |
| PRTR※1 | 非対象※2 | 非対象※2 | 基準値以下 |
| PCB廃棄物特別措置法 | 該当 | 該当 | 1回/年 届出済み |

※1 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) …化学物質排出移動量届出制度
 ※2 PRTRに該当しますが基準値以下のため非対象となります。

環境改善への取り組み

関係会社での環境改善報告

芝浦自販機(株)本社・小浜工場

「脱脂装置の省エネ」

粉体塗装とは、塗料中に有機溶剤や水等の溶剤を用いず、塗膜形成成分のみにて配合されている固体粉末を加圧空気中被塗装物に吹き付け、塗装する方法です。芝浦自販機(株)では自販機の塗装をこの方法で行っています。

粉体塗装設備には、被塗装品を脱脂するため、脱脂液をスプレーする方式の脱脂装置が設置されています。この脱脂液はLPGを熱源にしたボイラで発生させた蒸気で加温しています。実際に脱脂する際、手動で運転させたスプレーポンプは脱脂エリアに脱脂物がなくても運転を継続し、スプレーノズルから放出された脱脂液の飛沫からは多量の熱量が空气中に放出されてしまい、省エネの観点からは問題でした。その解決のため、脱脂エリアに脱脂物がないときはスプレーポンプを停止させるよう装置を改造しました。また、脱脂の次工程の水洗ポンプも脱脂物が無いときはポンプを停止させるように改善しました。

これにより、LPG消費量と電力量の両面で省エネを達成することができました。

芝浦エレテック(株)

「エコキャップ運動で2回目の寄贈」

当社のさがみ野事業所では、2009年からペットボトルのキャップを回収しています。

2011年1月に2回目の寄贈を海老名市役所へしてまいりました。

約1年間で貯まったキャップは1.8kgになり、8名分のワクチンに相当する量になりました。

今後ちょっとした心意気、気持ちがこもったエコ運動を続けて参ります。



各事業所の活動

さがみ野事業所

「相模川の美化清掃に参加」

2010年8月8日、県央相模川サミット構成六市町村主催のクリーンキャンペーンとして相模川の美化清掃に参加しました。

真夏の炎天下、河川敷に他団体、近隣住民含めて約6,000名が参加して、可燃物1,800kg、不燃物1,300kgの廃棄物を収集しました。



横浜事業所

「横浜環境行動賞」

さまざまな環境行動を行い、ゴミの減量に功労のあった個人や団体に横浜事業所から贈られる「横浜環境行動賞」事業者部門「分別優良事業所(分別三ツ星事業所)」に横浜事業所が4年連続で認定され、2010年12月5日に表彰されました。

分別優良(三ツ星)事業所とは、

- ★分別の品目が適切
- ★分別が徹底されている
- ★リサイクルできるものは全てリサイクルしている



横浜市資源循環局資源化推進部事業系対策課による
各部門分別保管場所の立入調査

上記の3つの基準に該当する事業所にあたえられるものです。今年度は横浜市にある大規模事業所[※]約2,600社のうち23社が認定されました。今後、さらに一人ひとりの分別の認識を向上させ、排出量自体を減らし、引き続き認定を目指し従業員全員で環境行動を続けていきます。

※大規模事業所・・・店舗面積500㎡以上の小売店舗および、延べ床面積が3,000㎡以上の事業所



2010年12月5日
横浜市大規模事業所計2,600社のうち
23社が認定され表彰された



分別優良事業所盾

第三者意見

関東学院大学 経済学部

教授 小山 巖也 氏



今年も、芝浦メカトロニクスグループの最新の『CSR報告書』を拝見する機会を得ました。冒頭で、南健治社長は、「自社のCSRへの取り組みは変貌する時代の要請に応えるものにしていかなければなりません」と述べておられます。まさに、その通りだと思います。そうした姿勢が、この『CSR報告書』には具体的な形となって表現されています。

例年同様、この『CSR報告書』は、①コンパクトであるにもかかわらず、必要な事柄が過不足なく記載されていること、②PDCAサイクルを意識した形で報告がなされていること、③基本的な方針や体裁がぶれることなく、経年変化が読み取りやすいことという3つの特徴が見られます。

その上で、今年の『CSR報告書』では、以下の3つの改善がなされています。

第1は、「トップメッセージ」が最初のページに移ったことです。『CSR報告書』においては、何よりもまず、トップの考え方、姿勢をステイクホルダーに伝えることが重要です。あわせて、「会社概要」「芝浦メカトロニクスの経営状況」の順番の見直しもなされているのも、読者の視線に立った変更だと思います。

第2は、「従業員とのかかわり」の「障がい者雇用に向けた取り組み」において、従業員の方の声に掲載されたことです。先日、ある会社のステイクホルダーとのミーティングに出席した際、実は、障がい者雇用が話題にあがりました。その際、単に法定雇用率を上回ればいいのかという問いが、投げかけられたのです。要するに、その会社でどう働くのが重要なのではないかという話です。今回のコラムからは、まさに、この問いに正面から応えようとする芝

浦メカトロニクスグループの姿勢がはっきりと伺えます。

第3は、同じく「従業員とのかかわり」の部分です。ここでは、昨年の第三者意見を踏まえ、仕事と育児の両立を支援する仕組みが具体的、かつ、わかりやすく示されています。また、高齢者雇用に向けた取り組みや安全対策についても、具体的に説明されています。単に「取り組んでいます」と書くのではなく、写真や図を用いながら「何をどのようにやったのか」を示すことは、とても大事だと思います。

他方で、次のような点については、改善の余地があるように感じます。

第1に、「目標と実績」において、「2010年度の目標・計画」が「2009年度の目標・計画」とどう違うのかわかるといいと感じました。例えば、変わった部分を太字で記載するとか、前年度の目標・計画を記載してしまうといったことが考えられるかもしれません。

第2に、「お客様とのかかわり」の「サービスに対するお客様評価」のグラフについてです。実は、このグラフ、2009年のものとほとんど同じです。厳しいいい方ですが、あまり変わらなかったんだという印象を受けました。昨年1年間の取り組みについての検証が欲しいところです。

第3に、「環境目標と実績」の部分ですが、今年度から本社・横浜事業所とさがみ野事業所を合わせた形での記載に変更されています。その点についての簡単な説明が欲しいと思います。

以上、色々述べましたが、今年の『CSR報告書』、これ以外にも細かい改良が随所で見られます。ステイクホルダーを意識していて、本当に真面目な『CSR報告書』です。しかしながら、その変化が目に見えてわかるような工夫が欲しいです。そろそろ体裁・デザインの変更があってもいいのかもしれない。『CSR報告書』は、各社とも非常に短期間でまとめなければならないため、担当者の皆さんのご苦労は相当なものだと思いますが、ぜひご検討頂きたいと思っています。

第三者意見を受けて

本報告書発行に際して、関東学院大学の小山先生に「第三者意見」の執筆をお願いいたしました。今回は「目標と実績」の記載方法、「サービスに対するお客様評価」の検証、「環境目標と実績」の記載方法などについて具体的なご意見、ご指摘をいただきました。その内容を十分に検討し、今後のCSR活動に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

芝浦メカトロニクス株式会社

〒247-8610 神奈川県横浜市栄区笠間2-5-1

お問い合わせ先

経営管理部 企画・広報グループ

TEL 045-897-2425

FAX 045-897-2470

e-mail s-koho@shibaura.co.jp

URL <http://www.shibaura.co.jp/>

※DVDは、ディー・ヴィ・ディー・フォーマット・ロゴ・ライセンス
グ株式会社の登録商標です。
※Blu-ray Discは、ブルーレイ ディスク アソシエーションの登録商標
です。
※本カタログに記載のあるその他の商標はすべてそれを保持する関連
各社に帰属します。

「CSR報告書2011」アンケート

「芝浦メカトロニクスグループCSR報告書2011」をご覧ください、ありがとうございました。
当社は、本報告書を皆さまとの重要なコミュニケーションツールととらえ、皆さまからのご意見・ご感想を今後の活動や報告書の改善に活かしていきたいと考えています。忌憚のないご意見、ご感想など、ご記入の上、送付いただければ幸いです。

Q1. 報告書をお読みになってどのように思われましたか？

- よくわかる わかりやすい わかりにくい わからない

(理由、ご意見)

Q2. 報告書の記載内容についてどのように思われましたか？

- 充実している やや充実している やや不足している 不足している

(理由、ご意見)

Q3. 報告の内容で興味をもたれた項目をお選びください(いくつでも)。

- | | | |
|---|---|---|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ | <input type="checkbox"/> 会社概要 | <input type="checkbox"/> 芝浦メカトロニクスグループの経営状況 |
| <input type="checkbox"/> 製品紹介 | <input type="checkbox"/> 目標と実績 | <input type="checkbox"/> マネジメント体制 |
| <input type="checkbox"/> お客様とのかかわり | <input type="checkbox"/> 株主・投資家の皆さまとのかかわり | <input type="checkbox"/> 調達取引先の皆さまとのかかわり |
| <input type="checkbox"/> 従業員とのかかわり | <input type="checkbox"/> 地域社会とのかかわり | <input type="checkbox"/> 環境憲章・環境基本方針 |
| <input type="checkbox"/> 環境経営 | <input type="checkbox"/> 環境目標と実績 | <input type="checkbox"/> 環境調和型製品の事例 |
| <input type="checkbox"/> 事業活動での環境への取り組み | <input type="checkbox"/> 環境改善への取り組み | <input type="checkbox"/> 第三者意見 |

(理由)

*企業のCSR取り組みとして充実させた方がよい項目、新たに付け加えた方がよい項目はありますか？

()

Q4. 芝浦メカトロニクスグループのCSR活動および情報開示について、どのように思われますか？ また期待されることは何ですか？

- 非常に評価できる 評価できる あまり評価できない 全く評価できない

(理由、ご意見)

Q5. この報告書をどのような立場からお読みになりましたか？

- お客様 お取引先 株主 金融・投資機関 研究・教育機関 政府・行政関係 報道関係
企業・団体担当者(CSR 環境 人事 法務 購買 顧客対応 社会貢献 その他)
環境の専門家 環境NGO・NPO 環境分野以外のNGO・NPO 学生
当社グループ事業所の近隣にお住まいの方 当社グループの従業員または家族 CSR報告書等の評価機関
その他 ()

Q6. この報告書を何でお知りになりましたか？

- 当社のホームページ 当社以外のホームページ 当社営業担当 当社購買担当 展示会
会社見学 当社株主総会・決算説明会など 新聞・雑誌 () その他 ()

Q7. 2009年から冊子での発行を止め、当社ホームページ上での開示のみとさせていただきますが、それに関してどのように思われますか？

- 冊子は必要。是非復活して欲しい 冊子は、どちらかと言うと、あった方がよい
冊子はなくてもよい 冊子での発行はまったく必要ない

Q8. その他ご意見、ご要望などがございましたらご記入ください。

()

ご協力ありがとうございました。お差し支えなければ以下にもご記入ください。

(ふりがな)
お名前

男性・女性 年齢 歳

ご住所(お勤め先またはご自宅)

ご職業(勤務先・学校名など)

部署・役職

ご連絡先 Tel.

Fax.

E-mail:

お寄せいただきました意見、ご要望を次回の報告書に掲載させていただく場合がございます。ただし、個人情報に関しましては、適切な管理を行い、報告書の送付とご質問への回答以外の利用、第三者への開示はいたしません。